



Book Review

評者: 林 千冬 神戸市看護大学教授

SMARTなプレゼンでいこう！

著: 前田圭介 / 本体: 2500円+税

発行: 医学書院 / TEL: 03-3817-5657



プレゼンのワザから研究を考える

本書は“プレゼンの本”というより、“プレゼンのためのスライドづくりの本”である。著者の前田圭介氏は、愛知医科大学大学院の講師。高齢者の摂食嚥下障害、栄養障害、チーム医療を専門に研究・教育に従事されている。紹介されるスライド例は、摂食嚥下や栄養障害にまつわる内容が多いので、看護職者にもかなり馴染みやすいだろう。

本書全体は4つのPartsに分かれている。まず、Part1「『伝わる』スライドづくりの基本」で、スライドデザインのテクニックとして有益なノウハウの大部分が紹介される。「情報はシンプル・ダイレクトに」「アニメーションはシンプルに」「加工のワザにおぼれない」といったアドバイスには、もともとスライド作りのワザなどもっていない評者も、わが意を得たりとニンマリ。けれど、「フォントの選び方」「コンテンツは上目に作る」「行間を自在にあやつる」あたりになると、あわててPCを起動して、わがスライドのダメさ加減を確認することになる。

続くPart2「発表場面別 使える！ テクニック」では、研究報告、ケースレポート、活動報告という種類別に、プレゼンの目的と型の違いが示される。看護学でいえば、後者2つのミックスが「実践報告」になるのだろう。順に読み進めていくと、実践報告のプレゼンの押さえどころが、研究報告のそれとの対比でよりクリアになっていく。

惜しむらくは、著者の実例は医学研究の、しかも量的研究のものが多く、それゆえ、看護学で少ない質的研究については触れられていない。また、ポスターに関しては「3列に段組する」「抄録を最初に載せる」など、目からウロコが落ちかけたまま、いまひとつ解説に物足りなさが残った。この2点については改訂版に期待したい。

Part3は「プレゼンテーション成功のコツ」。ここではプレゼンターに目を向けて、いかなる語りで聴き手の心をつかむか、自身の緊張をどうコントロールするかという、あたたかくも実践的なアドバイスがなされる。最後のPart4では「スライドデザイン実例集」として、「言葉を強調したい」「会話文を出したい」「流れを見せたい」などのねらい別に、著者自身が作成したスライドの実例を示しながら解説がなされる。

以上のように、本書はスライド作りとプレゼンのワザを、豊富な実例をもとに明解に解説した書である。他方、「素材の著作権に注意」というコラムや、考察・結論のスライドに何を書くかといった解説からは、研究倫理や研究そのものの意義を改めて深く考えさせられた。

ワザに関する鮮やかな解説のその底に、実は著者は別の網を仕掛けていたのかもしれない。それを確認するためにも、ぜひご一読を。